るもいおきさんせんそうなん
留萌沖三船遭難

しゅうせんひわ
～終戦秘話～

るもいおきさんせんそうなん
留萌沖三船遭難

しゅうせんひわ
～終戦秘話～

目　　次

はじめに　1

小笠原丸（おがさわらまる）　4

第二号新興丸（だいごうしんこうまる）　8

泰東丸（たいとうまる）　12

敵の潜水艦（てきのせんすいかん）　20

三船遭難の背景（さんせんそうなんのはいけい）　26

８月２２日以降の留萌沿岸（いこうのるもえんがん）　31

泰東丸捜索（たいとうまるそうさく）　33

慰霊（いれい）　41

おわりに　47

はじめに

みなさんは、留萌市海のふるさと館の隣の公園の中に「樺太三船殉難　平和の碑」があることを知っているでしょうか。その碑には次のように刻まれています。

誓　い

戦争の終った夏、昭和２０年８月２２日、樺太（サハリン）から小樽に向かっていた緊急引き揚げ船小笠原丸、第二新興丸、泰東丸の三船が、旧ソ連軍潜水艦の攻撃を次々と受けて轟沈や大破し、推定１，７０８人もの乗員、引き揚げ者が留萌沖の海底に消えた。

この悲劇を永遠に忘れないことを誓いながら事件から５０年経た今、鎮魂の祈りをこめ恒久の平和を願いこの地にこの碑を建立する。

平成７年１１月１５日

樺太引揚三船慰霊平和記念碑建設期成会

昭和２０年(1945)８月１５日、日本は太平洋戦争(*1)に終止符を打ちました。国内では敗戦による混乱がいたるところで続いており、樺太も例外ではありませんでした。８月９日のソ連(*2)の参戦から１９日の戦闘停止まで、ソ連軍の進撃は続いていました。

敗戦に伴う引き揚げ命令により樺太住民は大泊（コルサコフ）、真岡（ホルムスク）、本斗（ネベ

＊１　**太平洋戦争**

1941 年から 3 年 9 ヶ月の間アメリカを主とする連合国と日本が戦った戦争

＊２　**ソ連**

ソビエト社会主義共和国連邦は、1922 年から 1991 年までの間に存在したマルクス・レーニン主義を掲げたソビエト連邦共産党による一党制の社会主義国家。首都はモスクワ。現在のロシア共和国

リスク）の各港に集結し、引き揚げ船に乗る順番を待っていました。８月２２日の日ソの一般的停戦協定が結ばれるまで、老人、婦女子の優先的な引き揚げは続きました。しかし、この最後の引き揚げ船に悲劇(*3)がおこったのです。

碑文

＊３　悲劇
　悲しい出来事

小笠原丸

小笠原丸は、国産初の旧逓信省(*4)の海底電纜(*5)敷設船で、昭和２０年(1945)の終戦時は北海道と樺太の間の海底ケーブルの設置に従事していました。８月１５日の終戦の玉音放送(*6)は稚内港で迎えました。

樺太にいた逓信局長から逓信省関係者の引き揚げを頼まれ、１７日大泊港に向かい、翌日大泊港に殺到していた引き揚げ者のうち老人・子供・女性約１，５００人を稚内まで運びました。

８月２０日、再び大泊港に向かい、同じく１，５００人を稚内港に運び、約８８７人を下船させ、翌２１日午後４時、稚内港で下船しなかった

＊４　**逓信省**
戦前の官庁。郵便や通信を管轄していた。現在は総務省が管轄
＊５　**海底電纜**
海底ケーブル　海底に張った通信のための線
＊６　**玉音放送**
天皇陛下自らの声を録音したものを放送すること

約６００人と乗員８６人、警備隊１３人合計約７００人を乗せ小樽港に向けて出港しました。

この稚内で下船した中には、まだ２歳だった後の昭和の名横綱大鵬幸喜(*7)がいました。

日が落ちると小笠原丸は航海灯を点灯し、船の位置を示す無線信号を出しながら、南下していきました。航海灯をつけた船は攻撃されないというアメリカ軍からの情報を得ていたからです。

引き揚げに従事していた乗員は疲れから当直の者を除いて久々に安心して休んでいました。

未明、突然「魚雷(*8)音」と叫ぶ警備兵の声が響きます。すぐその後「右舷(*9)方向、魚雷音接近」と続きます。それに反応するかのように船は右に大きく旋回しました。魚雷ははずれていき

＊７　大鵬幸喜
樺太生まれの第 48 代横綱。昭和の大横綱といわれた

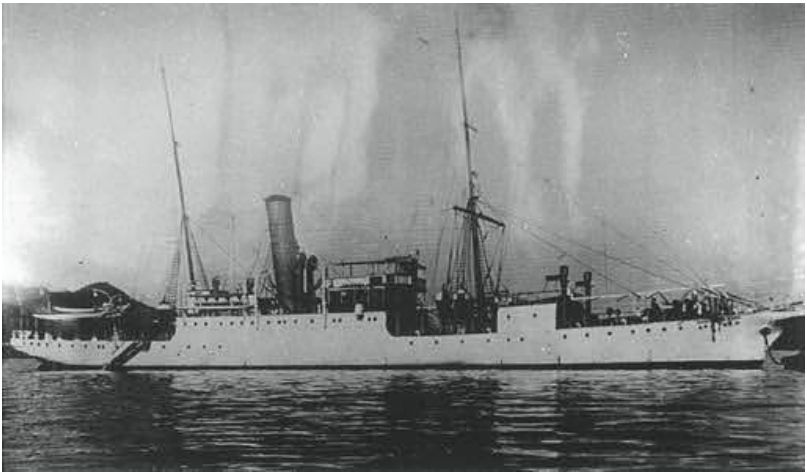
＊８　魚雷
魚形水雷の略称。主に潜水艦から発射される

＊９　右舷
船の進行方向の右側

ました。しかし、船の進路を元に戻したそのときでした、「魚雷音」と再び警備兵の声が響き渡りました。次の瞬間大きな衝撃音とともに乗船者は床や壁にたたきつけられました。午前４時２２分のことでした。船は浸水し、垂直に船首を空高くつきだして、ごおーという音とともに海底へ沈んでいきました。

波間に浮かんで漂っていた者には容赦ない機銃掃射(*10)があったということです。６４１人が死亡し、生き残った者は６１人だけでした。1隻の救命ボートが助かり、これに５０人ほど助け上げ、別苅(増毛町)の浜にたどり着きました。浜の人たちはその異様な姿に恐怖さえ覚えたそうです。その後、地元の漁師が舟を出し、遭難者の捜索にあたり１１人を救助しました。

＊10　**機銃掃射**　機関銃で敵をなぎ払うように射撃すること



海底電纜敷設船小笠原丸（1,456 トン）

OGASAWARAMARU と書かれた板

２０１９年の樺太移動展に展示された。

第二号新興丸

第二号新興丸は民間の貨物船を徴用(*11)し、改造した特設砲艦兼敷設艦として、大湊警備府隊(*12)、一時はその下の千島方面根拠地隊に籍を置き、北海道、樺太、千島方面で船団の護衛や哨戒(*13)に従事していました。６月は宗谷海峡への対潜機雷堰(*14)構築にも参加しています。

８月２１日午前９時頃、引き揚げ者約３，５００人を乗せ、大泊港を出港し初め稚内港を目指しましたが、稚内の受け入れ能力が限界に達しているため、小樽港に向かうように指示を受け、小樽港に向け沿岸を南下していきました。夜になり雨となり、波も高く、甲板に張られたテントの中

＊11　**徴用**
強制的に取り上げること
＊12　**大湊警備府隊**
現在の青森県むつ市にあった旧海軍の部隊
＊13　**哨戒**
敵の攻撃に対し見張りをすること
＊14　**対潜機雷堰**
対潜水艦用の機雷(水中兵器)を広範囲に設置すること

では多くの引き揚げ者が船の揺れの中で眠りについていました。

午前３時半頃、雨がやみ、波も穏やかになり、船は焼尻(*15)沖を順調に航海を続けていました。

４時５５分、「右５０度、雷跡」と右舷見張り員が叫ぶとともに、艦に大きな衝撃が走り、大きく右に傾きました。

「全員戦闘配置につけ」の号令で兵士たちが甲板に上がってきました。艦のエンジンは停止していましたが、魚雷が命中したのは二番船倉で機関室は無事でした。それで、「エンジン始動、微速(*16)前進」の艦長の指示で艦は動き出しました。

＊15　焼尻
焼尻島
＊16　微速
ゆっくり

甲板上では兵士たちが竹囲いで偽装(*17)していた旋回砲(*18)の覆いを外し戦闘配置についていました。第二号新興丸には１２センチ旋回砲２門、機銃１４丁を備えていました。

「潜水艦浮上」の艦内放送が聞こえると同時に潜水艦の機銃掃射が甲板上の引き揚げ者を襲いました。それとともに第二号新興丸も反撃を開始しました。戦闘はどれくらいの時間続いたのかわかりませんが、あっという間だったといいます。

敵の潜水艦は２隻または３隻といわれていますが、はっきりはしません。しかし１隻の潜水艦の正面に大きな黒い水柱が立つと潜水艦は姿を消しました。

＊17　偽装
囲いをして別なものに見せること
＊18　旋回砲
弾丸重量半ポンドクラスの小口径前装砲。スイヴェルガンともいう

艦長は懸命の操艦(*19)をしながら、留萌港へとゆっくりと艦を進めていきました。瀕死(*20)になりながらもなんとか午前９時に留萌港南岸壁に着岸することができました。魚雷の命中した二番船倉にいた引き揚げ者と甲板にいて機銃掃射を受けた人たちが帰らぬ人となりました。死亡２５０人、行方不明１５０人が犠牲となりました。

生き残った人たちは、留萌町民の家に別れて宿泊し、世話を受けたといいます。

特設砲艦兼敷設艦　第二号新興丸(2,577ﾄﾝ)

＊19　操艦
艦を運転すること
＊20　瀕死
今にも死にそうなこと

泰東丸

泰東丸は戦時標準貨物船(*21)として、物資の輸送にあたっていました。秋田から米を積み、小樽港へ向けて航行中に終戦の報を受け、軍部の指示により樺太大泊港に向かいました。

８月２１日、大泊港に集まっていた引き揚げ者780人を乗せると、夜１１時に大泊港を出港しました。これ以降日本人の引き揚げ船はソ連軍によって、許可されなかったので最後の引き揚げ船となりました。

船倉には米をいっぱい積み込んでいたため、甲板の上にテントを張り、引き揚げ者は雨の降る中夜を過ごしました。夜が明けるとともに雨も上

＊21　戦時標準貨物船
戦争中の海上輸送力増強のため、構造を簡略化し大量建造された貨物船

がり、右手に北海道の陸地を見ながら、泰東丸は８ノット(*22)の速度で航海を続けていました。

午前９時を過ぎたあたり、船の周りにリュックや水筒、荷物、木片などの浮遊物が漂っているのが確認できました。そしてその中には死体もあったのです。甲板の引き揚げ者たちも不安げに海面を眺めています。船長は船を更に陸よりに進路をとり、進んでいきました。進路の左方向には、くっきりと鬼鹿の海岸線の民家の屋根が見えています。

「クジラみたいなものが浮いてきた。」と操舵員(*23)が叫びました。浮かんできたのは真っ黒な潜水艦です。浮上した潜水艦のハッチ(*24)から２人の兵士が飛び出してきて大砲を泰東丸に向け

＊22　ノット
速さの単位で、1 時間に 1 海里(1.852km)進む速さ
＊23　操舵員
船の舵を操作して、一定の方向に進ませる人
＊24　ハッチ
潜水艦などの出入り口

発射しました。轟音とともに船首に大きな水柱が上がり、続いて何本かの水柱が上がりました。船長はこれは威嚇射撃(*25)だなと思い、臨検(*26)は避けられないと考え、船を停止させました。そして抵抗の意思のないことを伝えようと食堂のテーブルクロスを使って白旗を作り潜水艦に向かって振りました。

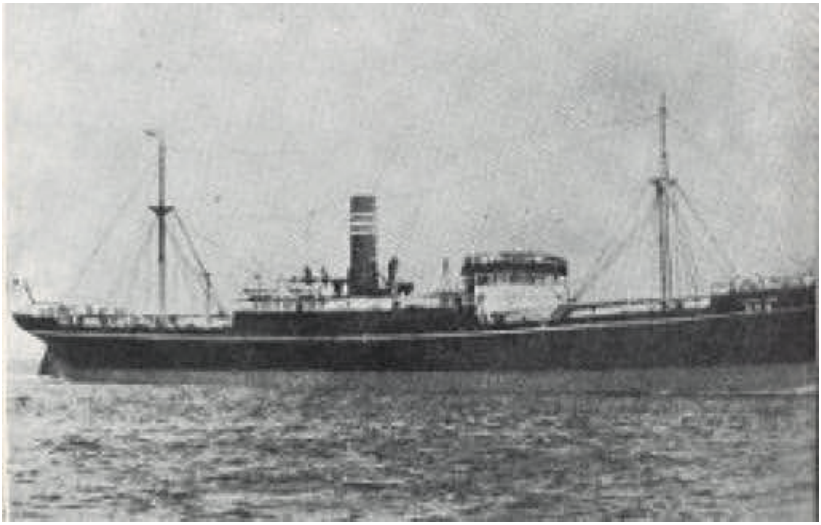
潜水艦は泰東丸の進路をふさぐように正面に回り、再び大砲が発射されました。砲弾は船腹に当たり、船の機関は停止してしまいました。この無抵抗の船に対して大砲や機銃を発射し続け、甲板上の引き揚げ者に容赦なく攻撃を続けたのです。地獄絵図(*27)でした。

＊25　**威嚇射撃**
実際の攻撃ではなく、それに似た姿や様子を見せることで対象を脅かすための射撃

＊26　**臨検**
その場所に出向いてとりしらべること

＊27　**地獄絵図**
きわめてむごたらしい状況になること

やがて、船は沈んでいき、死亡者６６７人が犠牲になりました。生存者は１１３人といわれています。



戦時標準貨物船同型船(887トン)

この生存者の救助にあたったのは、このすぐ後この海域を通過した海軍特設敷設艦(*28)　高栄丸（６，７７４トン）と海軍敷設艦　石崎（７２０トン）です。

この２隻は終戦まで宗谷海峡で機雷の敷設の任務を遂行していました。１５日の玉音放送は稚内港で聞きました。その後、樺太からの引き揚げ者の輸送にあたり、２１日に「横須賀(*29)に回航し、米軍の接収に応じよ」という命令を受けて、２２日朝、乗組員３００人を乗せて稚内を出港しました。

午後２時頃鬼鹿沖を通過するときに、波間に漂いながら日の丸を振り救助を待つ多くの人を発見し、約３時間がかりで１２３名を救助しました。

＊28　**敷設艦**
機雷を海中に敷設するための海軍艦艇
＊29　**横須賀**
神奈川県横須賀市　海軍の軍港

しかし、そのとき高栄丸の水中聴音機(*30)は潜水艦のスクリュー音をとらえていました。艦をとめて救助に専念すると敵潜水艦の魚雷攻撃をかわすことはできなくなります。それでも艦長は短艇(*31)を下ろして救助することを選択します。その間、石崎を高速であたりを走らせ、潜水艦が浮上する隙を与えないようにしました。また、いつでも戦闘状態になれるよう乗務員は緊張しながら救助を見守ったのです。

救助を終えた高栄丸と石崎は積丹半島の神威岬をめざし航海を続けましたが、午後５時頃船のソナーが潜水艦２隻の海面浮上をとらえました。このため、小樽港に入港するように見せかけて石狩湾に向かい、岸から５００メートルのほどの

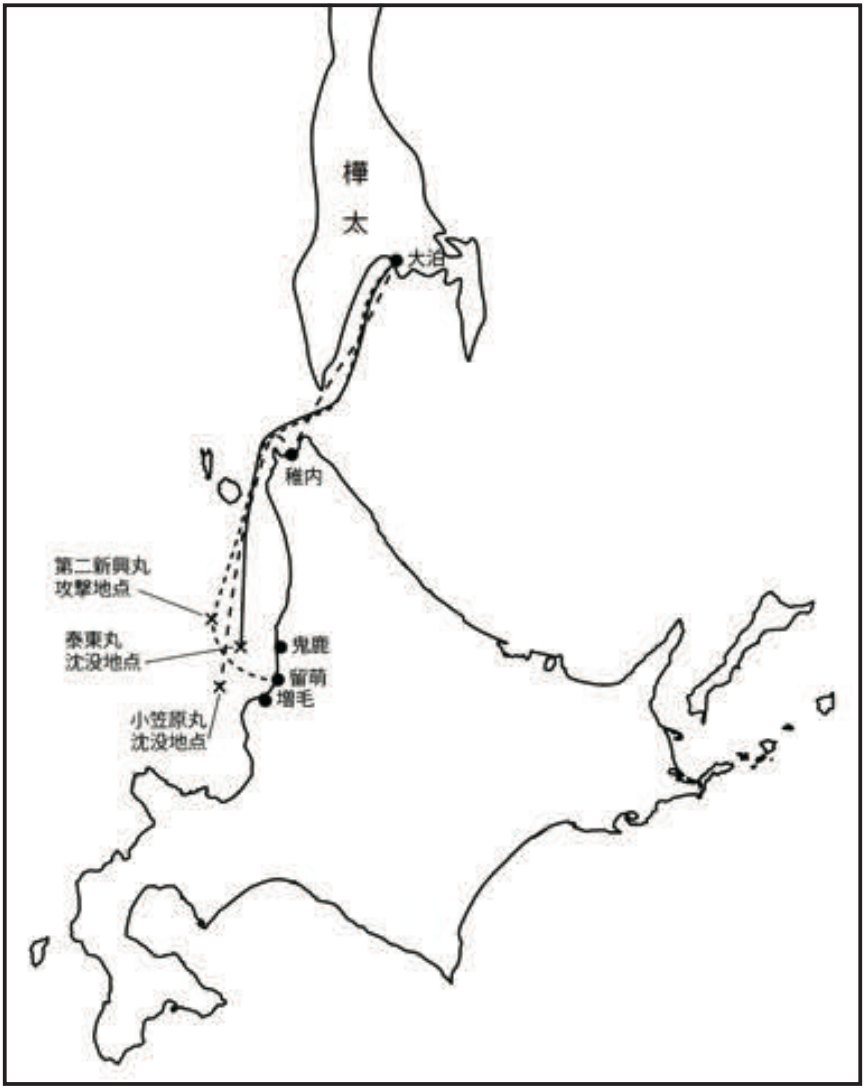
＊30　**水中聴音機**
音波が水中を伝わる性質を利用し、目標を音によって捜索・探知する装置

＊31　**短艇**
小舟、ボート

航路を音を立てないようにゆっくりと航行し、潜水艦に見つからないように航海灯も消して進みました。２３日の未明に無事に神威岬を通過し、潜水艦の追跡を逃れました。

船名	小笠原丸	第二号新興丸	泰東丸
船種	海底電纜敷設船	特設砲艦兼敷設艦	戦時標準貨物船
船長	蛭子　康	萱場松次郎	貫井慶二
乗組員	86名	51名	
全長	74．1m	90．8m	
全幅	6．8m	13．72m	
総トン数	1,456トン	2,577トン	887トン
備考	6月から北海道と樺太間のケーブル敷設に従事。大鵬幸喜はこの船で樺太から引き揚げ、稚内で下船し難を免れる。	大湊警備府部隊の千島方面特別根拠地隊に属し、船団護衛や哨戒に従事。宗谷海峡への対潜機雷堰構築に参加。	秋田から米を積み小樽港に向かっていたが、終戦の報を受け軍部の指示により樺太大泊港に入港地変更。

犠牲になった三船の概要



三船の航跡（さんせんのこうせき）

敵の潜水艦

三船を攻撃した潜水艦は戦後国籍不明の潜水艦といわれてきましたが、旧ソ連軍の潜水艦であることがわかりました。

ソビエト連邦海軍太平洋艦隊に所属するレーニネツ級潜水艦L-12とL-19の２隻です。

この２隻には次のような任務が課せられていたことがわかっています。

８月１９日付の命令書には

・第１極東戦線は、北海道北部占領の任務を負う。

・８月２４日未明、占領軍の留萌港上陸予定。

探索(*32)と占領軍搬送援護(*33)のため、８月２３日２０時まで、留萌港およびそこへの接近路

＊32　探索
未知の事柄などをさぐり調べること
＊33　援護
助けること

探索、２０時以後、敵の軍艦掃討(*34)および敵軍艦出現の報告をする。また、航行中の敵の船舶はすべて撃滅する。

とありました。

　そして、８月１９日１９時に母港ウラジオストク港を出港したのです。そして８月２１日１４時３０分には留萌港接近路の海域に到着して巡視活動に入りました。

　L-12 の行動記録によると、８月２２日４時２分輸送船を確認し、攻撃。４時１８分輸送船沈没とあり、これは小笠原丸の攻撃沈没時間と一致します。L-19 の行動記録には北緯４４度０８分東経１４１度３０分輸送船撃沈とあり、これは泰東丸の攻撃沈没場所と一致します。また、１隻損傷を負

＊34　掃討
　敵などをすっかり撃ち払うこと

って留萌に帰港と報告しています。これは第二号新興丸のことと考えられます。

この後も高栄丸と石崎を追尾し、午後５時頃浮上した２隻はL-12とL-19と考えて間違いないでしょう。

太平洋艦隊司令部から輸送船への攻撃中止命令が出たのは２２日２３時５８分で、翌２３日０時０２分には日本船攻撃禁止命令が発せられました。その後の任務は偵察(*35)のみとなりました。

任務終了後、L-12は母港に帰港しましたが、L-19は８月２３日１４時０４分以降連絡が取れなくなり、宗谷海峡横断の際に日本の機雷により沈没したものと考えられています。

＊35　偵察
敵（相手）の様子・動きや地形などを（こっそり）観察・観測し、その情報をとること

艦名	L—12	L-19
艦種	レーニネツ級潜水艦 第2改系列	レーニネツ級潜水艦 第13系列
艦長	シェルガンツエフ海軍大尉	コノネンコA. S. 海軍少佐
乗組員	55名	55名
全長	85. 3m	85. 3m
全幅	7. 0m	7. 0m
兵装	B-24 1936年型10cm(51口径)単装速射砲1基 21-K 1934年型4.5cm(46口径)単装高射砲1基 53.3cm水中魚雷発射管単装8門(前部6門、後部6門、予備魚雷18本) 機雷18発	B-24 1936年型10cm(51口径)単装速射砲1基 21-K 1934年型4.5cm(46口径)単装高射砲1基 53.3cm水中魚雷発射管単装8門(前部6門、後部6門、予備魚雷18本) 機雷18発

攻撃した潜水艦の概要

留萌沖三船遭難犠牲者

船名	状況	乗船人数	生存者	死亡・行方不明者
小笠原丸 (1, 456トン)	増毛別苅沖で、潜水艦魚雷攻撃で沈没	702人	61人	死亡 641人
第二号新興丸 (2, 577トン)	小平村鬼鹿沖で潜水艦の魚雷攻撃を受け大破しながら留萌港に入港	3, 600人	3, 200人	死亡 250人 行方不明 150人
泰東丸 (887トン)	小平村鬼鹿沖で潜水艦の砲撃で沈没	780人	113人	死亡 667人
合計		5, 082人	3, 374人	1, 708人

各船の行動記録

		小笠原丸（1,456トン） 逓信省海底ケーブル敷設艦	第二号新興丸（2,577トン） 海軍特設砲艦	泰東丸（887トン） 貨物船
8月15日				
8月19日	11:25			
	18:05			
	19:10			
8月20日	23:45	大泊出港（23:45） （約1，500人乗船）		
8月21日	9:00		大泊出港 （約3,500人乗船）	
	11:00	稚内入港 （約887人下船）		
	14:30			
	16:00	小樽に向け出港 （約600人乗船）		
	23:00			大泊出港 （780人乗船）
8月22日				
	4:20	別苅沖で魚雷を受け沈没		
	4:55		潜水艦の魚雷を受け大破	
	4:58			
	7:32			
	9:00		留萌港南岸に着岸	
	9:50			潜水艦の砲撃を受け沈没
	12:00			
	17:00			
	22:28			
	23:58			
8月23日	0:02			
	1:40			
	14:08			

潜水艦L―12	潜水艦L―19	高栄丸(6,774トン) 海軍特設敷設艦 石崎(720トン) 海軍敷設艦
		15日迄に機雷敷設
出港準備命令 艦長へ命令書伝達 ﾎﾟｼﾞｼｮﾝへの移動のため出港		
巡視地点到着		
輸送船確認攻撃 開始(04:02) 輸送船沈没 (04:18)	大泊への接近路 に出て敵艦掃討 命令 攻撃開始命令 北緯44度08分東 経141度30分輸 送船撃沈。更に1 隻損傷を負って 留萌に寄港と報告	稚内を横須賀に向け出向 (乗組員300人) 小平町沖で泰東丸の 生存者123人救助 潜水艦2隻の浮上を察知
輸送船は攻撃しないように命令		
日本船攻撃は禁 止。偵察任務の み命令 艦長命令受領確 認	以降応答なし 沈没？	積丹半島の神威岬を 突破

三船遭難の背景

８月１５日の天皇陛下による玉音放送でポツダム宣言の受け入れを表明してから１週間後に起きた悲劇については、旧ソビエト連邦の野望と関係しています。

日本とソビエト連邦は昭和１６年(1941)に日ソ中立条約を結んでいました。この条約は相互不可侵(*36)および第三国の軍事行動の対象になった場合には中立を保つというものでした。そしてその有効期限は５年で、期限の切れる１年前に廃棄(*37)を通告しなければ更に５年間自動的に延長されるというものでした。つまり、昭和１６年(1941)４月２５日発効した条約ですので、昭和２１年(1946)４月２４日までは有効でした。しか

＊36　相互不可侵
国家が条約等によって相互に武力の威嚇あるいは武力の行使を禁じ、領土保全、国境の現状、政治的独立を尊重しあうこと

＊37　廃棄
条約の効力を当事国の一方の意思で無効にすること

し、ソ連は昭和２０年４月５日に日ソ中立条約の不延長を通告してきましたが、有効期限が切れる前の８月８日に条約を破棄して日本に宣戦布告をし、翌９日から対日参戦をしました。条約違反ということができます。

このソ連の行動は２月４日から１１日までクリミア半島のヤルタで行われたアメリカ大統領ルーズベルト、イギリス首相チャーチル、ソ連指導者スターリンの三者会談で対日本戦についての密約(*38)がかわされたことによるものでした。当時第二次世界大戦もヨーロッパ戦線においてはナチスドイツの敗北が確実となり、極東での日本に対する戦線への戦力を集中することにより、早く戦争を終結させようとしていました。そのため

＊38　**密約**
ひそかに契約や条約などを結ぶこと

に、アメリカを初めとする連合国はソ連にドイツ降伏後に対日参戦をするよう促していたのです。そこで、アメリカのルーズベルト大統領はソ連のスターリンに対日参戦の代償として、戦後の南樺太（サハリン）および千島列島の領有を認めていたのです。

　そして、南樺太には８月１１日にソ連軍が国境を越えて侵攻してきました。これによって南樺太の住民は本土へ避難するために真岡（ホルムスク）、本斗（ネベリスク）、大泊（コルサコフ）の三港へ駆けつけ、引き揚げ船に乗り順次北海道に向けて逃げようとしたのです。

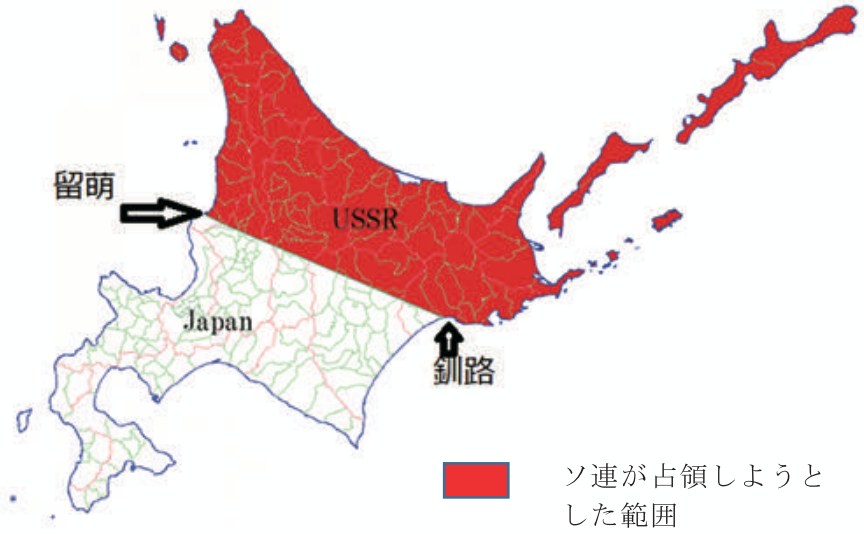
ソ連軍は８月２３日から南樺太住民の本土への引き揚げを禁止しました。泰東丸が最後の引き揚げ船となったのです。

また、スターリンは南樺太と千島列島のほかに８月１６日に北海道の占領もアメリカのトルーマン大統領に要求してきました。ルーズベルト大統領の急死で副大統領から大統領になったトルーマンはこれを１８日に拒否します。しかし、スターリンは虎視眈々(*39)と状況を見ながら機会を狙っていたものと考えられます。

三船を攻撃したL-12とL-19の2隻の潜水艦は北海道への侵攻のための作戦で行動していたことがわかっています。上陸地は留萌および釧路で８月２４日が決行の日だったといわれています。ス

＊39　虎視眈々
機会をねらって油断なく形勢をうかがっているさま

ターリンが北海道占領のための樺太での軍事行動を停止したのは３０日になってからです。



ソ連の北海道占領作戦

８月２２日以降の留萌沿岸

その後、留萌沿岸には多くの死体や積み荷などの品が流れ着きました。漁師たちはこの間漁をすることができませんでした。網を仕掛けるとそれに死体がかかったり、タコをあげると中から髪の毛が出てきたりと売り物にならなかったからです。

鬼鹿の漁師たちは泰東丸が沈んでいるあたりでは、意識して漁をしなかったということです。

第二号新興丸で九死に一生を得た人たちは、女性子供が多かったのですが、一緒に乗船していた自分たちの家族を必死に探しました。しかし、遺体に会えた人はまだ良いのですが、行方不明や誰か判明できない遺体などがあり、遺骨も受け取

ることができない方も多くいました。そして、連絡の取れた親戚等に随時引き取られていきました。

留萌港にたどり着いた第二号新興丸
(高木 勲 氏画)

泰東丸捜索

昭和４２年(1967)、北海道は厚生省(*40)の依頼で、初めて三船遭難者の名簿を作成しました。その名簿がやっと日の目を見たのですが、判明していない人たちも数多くいたのです。当時戦争で亡くなった人たちの遺骨収集などの国の事業が行われていました。泰東丸の遺族の中に遺骨の捜索を厚生省の援護局に訴えました。その後、全国樺太連盟などの陳情もあり、遺骨引き揚げのための泰東丸の捜索を厚生省が防衛庁(*41)に依頼したのは昭和４９年(1974)のことで、遺族から訴えがあってから７年の歳月が流れていました。

＊40　厚生省
現在は厚生労働省

＊41　防衛庁
自衛隊の管理、運営、日米安全保障条約に係る事務等を所管する。現在は防衛省

捜索は青森県の大湊基地に所属する「おおつ」、「ほたか」の２隻の掃海艇（*42）が９月２６日から１０月４日まで事故報告書にある沈没地点を中心に東西５．５キロ、南北７．４キロの範囲をレーダーによる探査をしましたが、沈んでいる船影は発見できませんでした。

海上自衛隊による捜索は昭和５１年（1976）８月３日と４日に横須賀基地の掃海艇、５２年（1977）には７月２５日から８月２日まで、サルベージ（*43）会社による潜水士を投入し、沈船を発見しましたが、泰東丸ではありませんでした。

引き続き、昭和５３年（1978）、５４年（1979）と海上自衛隊による捜索が行われましたが、発見できませんでした。

＊42　**掃海艇**
掃海による機雷の除去を任務とする軍艦
＊43　**サルベージ**
沈没した船舶の引き上げ回収を行うこと

日刊留萌　昭和54年8月31日（金曜日）

「泰東丸」の捜索実現

戦後34年海底に眠る引揚船

遺族の悲願実るか

漁民の執念に自衛隊出動

「今年こそ！」の期待をかけ、終戦直後の八月二十二日留萌沖に沈んだ引揚船「泰東丸」の捜索が、海上自衛隊の協力を得ての十月五日から九日までの十五、六、小平町漁連で実施されることになった。今回の捜索は小平町の漁民らの組織している「泰東丸の探索を進める会」（会長＝小野寺重雄）にたえたもので、海上自衛隊第二掃海隊の掃海艇「おうみ」「ふしい」（二八〇トン型）と「りしり」「れぶん」（いずれも五〇〇トン型）が留萌港を出港し、小平町沖合約十二、三キロ四方の海上を捜索する。

泰東丸は、昭和二十年八月二十二日午前十時ごろ、樺太からの引き揚げ者約八百七十人を乗せて小樽へ向け航行中、留萌沖合で国籍不明とされている潜水艦の攻撃を受けて沈没、今が遺骨の遺品が収容されていない。「泰東丸の捜索は進まず、探しられ、五十二年には法船の引き揚げ作業も実施されたが、「泰東丸」の決定的な手は見られなかった。

「捜索を進める会」では、全国の漁民らが持ち船の魚群探知器などで独自の捜索を進めていたものだが、海上自衛隊は業績と協力を会の主張ところと一致していた。会の漁民らは、自分たちの探した地点からサケなどが網にかかったりしたり、泰東丸に違いない、と自信を強めている。海上自衛隊では「あくまでも訓練」と言っているが、もし泰東丸につながる証拠が見つかれば、その後の本格的な捜索引き揚げへの進展も期待される。この三回目の捜索期間では、「今年こそ泰東丸を！」の熱情が強まっている。

泰東丸の捜索

オリエン
リング

日刊留萌

1954.9.19

「泰東丸」発見できず

海上自衛隊が正式発表

日刊留萌 54.9.8

「泰東丸」懸命な捜索

遺族の悲願は17日以降

昭和54年9月8日、19日付日刊留萌新聞

昭和５４年(1979)には９月６日から９日まで、大湊基地の「りしり」、「れぶん」、「おうみ」、「ふくえ」の４隻の掃海艇を投入し捜索したのですが、発見できませんでした。それで厚生省もこれ以上の捜索を断念せざるを得ませんでした。

ところが、昭和５６年(1981)に鬼鹿の漁船が鬼鹿港南西１６キロメートルの地点で、泰東丸らしき沈船を発見しました。

これを受けて、全国樺太連盟が調査に乗り出し、昭和５８年(1983)の捜索で時計１個や高圧ケーブルの破片などを引き上げましたが、船名板などは確認できませんでした。ただ、厚生省も泰東丸であると断定し、正式に遺骨収集に乗り出

すことになりました。昭和５９年(1984)８月４日から９日まで遺骨収集の捜索を行いましたが、遺骨は見つからなかったため、これ以上の捜索を打ち切りました。

しかし、遺骨収集に執念を燃やす地元の「泰東丸の探索を進める会」は翌年の昭和６０年(1985)６月１日から３日まで地元漁船による捜索を続けましたが、遺骨を見つけることができず、８月２２日の慰霊祭の後で会を解散し、泰東丸の捜索は完全に終了しました。

小平町では、樺太連盟と厚生省に対して引き上げた遺品を郷土資料館に展示したいので、遺品を譲渡願いたいと要請しました。この願いは聞き入れられ、引き上げられた遺品は小平町の郷土資料

館に展示されました。現在は道の駅の２階に展示され、この悲劇を永遠に語りつないでいます。

北海道新聞　昭和58年(1983)7月7日(木曜日)　第142

撃沈された樺太引き揚げ船

泰東丸の船体発見

船型、マストに特徴

小平沖　遺骨収容検討へ

99％確実　「探索進める会」今村会長語る

全民労協

昭和 58 年 7 月 7 日付北海道新聞

北海道新聞　昭和58年(1983)7月7日(木曜日)

〝悲劇の船〟手探り確

泰東丸発見ダイバー「船底の穴で直

坑道は待っていた

再開に備えて整備万全

忘られぬ38年前

遺族 生存者 銃後の者の無念再び

自衛隊試験 遅えい公判

最高四年

相場らの共謀強調「国家

昭和 58 年 7 月 7 日付北海道新聞

慰霊

三船の遭難から個別に行われていた慰霊は、地元の社会福祉関係者などの発案で、三船の慰霊碑を建てて、遭難者の慰霊を行いたいという思いから、樺太引揚遭難碑建立委員会ができました。募金により広く資金を集めて建立することとなり、１２５万円の浄財(*44)を集め、昭和３７年(1962)に９月２２日に完成しました。建立された場所は三船の遭難した場所が一望できる留萌市の千望台で、鉄筋コンクリート御影石葺きで高さ７メートルの大きなものでした。そして毎年事件のあった８月２２日には遺族らが出席して慰霊祭が行われていました。

＊44　浄財
慈善・社会事業などに寄付する金

昭和41年(1966)千望台での慰霊祭

遭難から５０年たった平成７年(1995)に、慰霊碑の老朽化と遺族の高齢化による参加者の減少などから、「樺太三船殉難　平和の碑」として黄金岬の海のふるさと館横の公園に再建されました。

樺太引揚三船殉難　平和の碑
（からふとひきあげさんせんじゅんなん　へいわ　ひ）

（海のふるさと館横公園）

泰東丸が沈没した小平町鬼鹿の重要文化財旧花田家番屋の前浜に、昭和５０年(1975)に樺太引き揚げ三船遭難慰霊碑建立委員会により「三船遭難慰霊之碑」と平成１６年(2004)に遺族会による「慟哭の海に誓う」の碑が建立されています。

三船殉難慰霊之碑

(鬼鹿旧花田家番屋前浜)

碑文（ひぶん）

働哭の海に誓う（鬼鹿旧花田家番屋前浜）

小笠原丸殉難の碑(増毛町町営墓地)

増毛町には町営墓地の中に小笠原丸遭難の碑があり、それぞれ８月２２日には慰霊が行われています。

おわりに

日本人にとって終戦の日は、天皇の玉音放送のあった８月１５日と思われていますが、まだ、武装解除(*45)も行われていない状況では、国際法(*46)では戦争は続いていたことになります。完全に敗戦が確定するのは９月２日の戦艦ミズーリーでの降伏文書の調印式の終了後です。

また、このときの国際情勢がこの三船にとって最悪の結果をもたらしました。その後のアメリカとソ連との覇権(*47)争い、東西冷戦(*48)の序章(*49)です。ソ連は北海道北半分占領のための作戦中でした。ただ、アメリカの同意が得られず断念したのです。ソ連が１日早く作戦を中止していればこの惨劇は起きなかったこととなります。

＊45　武装解除
降伏者・捕虜などから強制的にその武器を取り上げること
＊46　国際法
国際法とは、国際社会を規律する法をいう

しかし、三船に乗船していた引き揚げ者の多くが女性と子供という非戦闘員であったこと、白旗を掲げて戦闘の意思がないことを示したにもかかわらず一方的な攻撃を受けたことなど、ソ連潜水艦攻撃を正当化することはできません。第二号新興丸は自衛のために反撃をしたことから、何とか留萌港に入港できたのです。

これもすべて戦争という人間性を否定する殺人を正当化する行為がなせるものです。

私たちはこの三船の悲劇を後世に伝えて、この惨劇が２度と起きないようにしていかなければなりません。

＊47　**覇権**　現実の国際政治・外交の世界においては，他国を圧倒する勢力
＊48　**東西冷戦**　第二次世界大戦後まもなく、世界各国が米国を中心とする資本主義国とソビエト連邦を中心とする社会主義国に大きく二分されて生じた対立関係のこと
＊49　**序章**　本題に入る前に前置きとして置かれた文章

あとがき

昨年(2019)１０月１１日から１４日までの４日間留萌市の中央公民館で「樺太関係資料館　留萌移動展」が開催されました。その中に三船遭難のコーナーを設け、泰東丸の遺品や小笠原丸の船名の入った道具箱看板を展示することができました。先の戦争の最後の犠牲者が留萌の海ででたことを後世に語り継いでいくことが、私たちの義務なのかもしれません。

本書をまとめるにあたり、全国樺太連盟はじめ多くの方々にご協力をいただきました。感謝申し上げるとともに、もう２度と戦争の犠牲者が出ないことを祈ってやみません。

著者識

参考文献

樺太終戦史　樺太終戦史刊行会　全国樺太連盟
1973

樺太終戦秘話　三船殉難の記録　桜岡一郎　1983

慟哭の海　樺太引き揚げ三船遭難の記録
北海道新聞社　1988

海の中からの叫び　鈴木トミエ
北海道出版企画センター　1990

ミッドナイトジャーナル　NHK　1992

ソ連潜水艦 L-19 号応答なし・・・
－留萌沖三船遭難、もう一つの悲劇－
矢野牧夫　月刊クオリティ　2004

昭和二十年夏、北海道日本海沿岸の戦慄
－スターリンの北海道占領作戦－

矢野牧夫　樺太豊原会機関誌『鈴谷』
21 号　2005
戦後 70 年　北海道と戦争　証言　8.22 留萌沖
①～④　北海道新聞　2015
戦後 70 年　北海道と戦争
終戦直後三船遭難の留萌沖
北海道新聞　2015
海わたる聲　中尾則幸　柏艪社　星雲社発売
2019

この冊子はサマージャンボ
宝くじの収益金を活用して
作成しています。

留萌沖三船遭難～終戦秘話～
（るもいおきさんせんそうなん　しゅうせんひわ）

発　行　日　令和２年７月３１日
編　　集　留萌市教育委員会
著　　者　福士　廣志
発　　行　留萌市教育委員会
表　　紙　高木　勲
印刷・製本　三井印刷株式会社